理研会報

発　行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町９４８－１

第40次 教育研究集会に向けて

各部会の研究テーマ

◎小学校・低学年分科会 ――
※第一部会
意欲的に学ぶ子どもの育成
――発展・応用をめざして――
※第二部会
地域の自然をとり入れ、楽しさを抱かせる理科学習はいかにあるべきか
――児童用ガイドブックを利用して――
※第三部会
生きものの成長や変化に気づかせる指導はどうあるべきか
※第五部会
自ら求め、追求する理科学習の工夫

◎小学校・高学年分科会 ――
※第一部会
意欲的に学ぶ子どもの育成
――発展・応用をめざして――
※第二部会
楽しさを抱かせる理科学習のあり方はいかにあるべきか
――天文観察ガイドブックを利用して――
※第三部会
人体の成長や働きについての認識を深める指導方法はどうあるべきか
――三～六年「A・生物とその環境」（主として人体の学習を通して）――
※第四
子供が楽しみながら、見通しを持って、学習に取り組むにはどうしたらよいか
※第五部会
自ら求め、追求する理科学習の工夫

◎中学校分科会 ――
※第一部会
自ら学ぶ生徒を育成するにはどうしたらよいか
※第二部会
生き方にせまる理科学習のありかた
※第三部会
生徒の関心を高める授業はいかにあるべきか
――魅力ある授業をどうつくるか――
※第四部会
子供が楽しみながら、見通しを持って、学習に取り組むにはどうしたらよいか
※第五部会
自ら求め、追求する理科学習の工夫

教研集会

◎十月五日（金）
◎成田小学校（アリーナ）
◎受付け　九時より
（開始は九時三十分）

注意
・車の乗り入れはできませんのでご注意ください。
・スリッパ等の上履きのご用意をお願いします。

各部会の取り組み

第1部会

主題：自ら学ぶ児童生徒を育成するにはどうしてらよいだろうか。（小中共通テーマ）

この主題は換言すれば“自己教育力の育成”ということである。

中学校部会では指導過程と授業展開方法に焦点をあてている。指導過程は、単元を試行学習→全体学習Ⅰ→多様な学習（選択実験）→全体学習Ⅱという流れに再編成し、主に多様な学習で自己教育力育成の場面を設定している。本年度は全体学習Ⅰを終えた段階で形成的評価を行い、その結果をもとに多様な学習に進むという過程にした。それに伴い多様な学習は補充・深化としての意味合いを持つことになり、選択実験は難易度の面でも幅を持たせようとしている。

また、自己教育力の要として自己評価があげられるが、実施する場面の確保と方法も取り上げている。

小学校部会では、一昨年度までの「子どもの考えを大切にする」立場の研究から、結果の考察・新たな問題への追求段階での課題が派生してきた。そのため、理科の学習が知識の伝達に偏ることなく、児童一人ひとりが十分な活動によって得た知識や経験を、活用したり発展させたりする活動を重視し日常生活への適用まで高める段階に焦点をあてている。本年度は、児童一人ひとりの活動時間を大切にした上で、発展・応用の場の確保（指導計画への位置付け）、教材・教具の検討等を取り上げ、研究に取り組んでいる。

第3部会

小学校低学年部会
◎研究主題
『生きものの成長や変化に関心を抱かせる指導はどうあるべきか』
◎本年度の研究
児童が生きものの世話や観察を意欲的に行えるようにすることを目指し、飼育・栽培方法の工夫と児童の目的意識に重点を置いた指導計画を作成する。

小学校高学年部会
◎研究主題
『人体の成長や働きについての認識を深める指導方法はどうあるべきか』――三～六年「A・生物とその環境」（主として人体の学習）を通して――
◎本年度の研究
指導案に基づく授業展開をし、授業風景のVTRや児童の感想等をもとに考察し、成果と課題を明らかにする。

中学校部会
◎研究主題
『生徒の興味関心を高める授業はいかにあるべきか』――魅力ある授業をどうつくるか――
◎本年度の研究
1. 生物のからだ
循環器の学習で、生徒の不快感を取り除き、生物はすごいと思わせられるような指導を目指す。
2. 天体・光と音
指導内容の研究、指導方法の工夫、教材教具の開発を行う。

第5部会

『自ら求め、追求する理科学習の工夫』

本部会では、S62～H1まで“考える態度を育てる理科学習はどうあるべきか”に取り組み、一応の成果を得ることができた。

その中で課題として残った点や市内の実態等を調査し、今年度新たなテーマを設定すべく、理科研究部員で取りくんだ。

研究部員の話合いで話題になったことは、小学校では、観察・実験には喜んで取りくむ子が多いが、自分から問題を見つけることや、得た結果を考察していくことが苦手であるということである。中学校においても、考えることよりも結論を急ぐことや、自ら課題を見つけ追求することが上げられ、生徒自身の思考力や探究心育つことの疎外要因として働くことが多くあるという話合いがされた。

そこで、本部会の小中の共通テーマを“自ら求め、追求する理科学習の工夫”と設定し、自然の事物現象の中から、自らの課題をみつけ、追求していく児童、生徒の育成を図ることとなった。

今年度は研究の初年度ということで、小学校低学年、高学年、中学校の各分散会とも、市内小中学校の実態調査、研究仮説の設定、年間指導計画の樹立等に中心をおき、取りくんでいく予定である。

第二部会・四部会の取り組みについては、原稿が未着のため、本号での掲載はできませんでした。